

平成21年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：斑点米カメムシ類（No. 1）

平成21年7月17日

鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

斑点米の原因となるカメムシ類が、水田周辺のイネ科雑草地などで平年並に多く発生しています。

今後、出穂期を迎え、カメムシ類の水田への侵入加害による斑点米被害の発生が懸念されますので、穂揃い期から乳熟初期の適期防除を徹底してください。

2 発生状況

- (1) 7月6日～7月10日に行った巡回調査定点のすくい取り調査の結果、水田周辺のイネ科雑草地などでは、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ホソドリカスミカメ類、トゲシラホシカメムシなどの発生がみられている。
- (2) 捕虫網5往復10回振りすくい取りによる平均成幼虫数は161.0頭（平年：145.0頭）であった（表1）。アカスジカスミカメは平年並の発生であるが、クモヘリカメムシ及びホソハリカメムシは平年より多かった。
- (3) アカスジカスミカメは県下全域で発生がみられ、特にイタリアンライグラスが優占する雑草地、休耕田などで発生が多い。
- (4) クモヘリカメムシ及びホソハリカメムシは、ヒエ、エノコログサが優占する雑草地、休耕田で発生がみられ、高密度に発生している地点が散見される。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 雑草地、畦畔などのイネ科雑草はカメムシ類の増殖源となるので、適正な管理を行う。
 - ア ひとめぼれ、コシヒカリ等7月下旬～8月上旬に出穂期を迎えるほ場
出穂20日前頃に草刈りを行ったほ場では、再生したイネ科雑草が穂をつける前（水稲の出穂期頃）に再度草刈りを行うと、カメムシの密度がさらに低下する。
 - イ 日本晴、おまちかね等8月中旬頃に出穂期を迎えるほ場
出穂20日前頃に1回目の草刈りを行い、その後、再生したイネ科雑草が穂をつける前に再度草刈りを行うとカメムシ類の密度がさらに低下する。
- (2) 7月下旬～8月上旬に出穂期を迎える地域で、出穂20日前頃に水田周辺のイネ科雑草地、畦畔などの草刈りを行っていない場合は、穂揃い期から乳熟初期に草刈りを行い、草刈り後直ちに防除する。
- (3) 水田内で穂をつけたヒエ類はカメムシ類の発生を助長するので、直ちに取り除く。
- (4) 薬剤防除は適期に行う。
 - ア 粉剤、乳剤などを使用する場合
薬剤防除は穂揃期から乳熟初期に行い、その後も発生が多い場合は7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。防除は地域一斉で行うと効果が高い。なお、出穂前散布の防除効果は期待できない。

イ 粒剤を使用する場合

各薬剤の散布適期を確認して湛水散布を行う（湛水散布にあたっては、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項などを確認するとともに、止水期間を1週間程度とし、また、農薬の流出を防止するために必要な措置を講じるように努める）。また、散布後も発生が多い場合は粉剤、乳剤などで追加防除を行う。

(5) 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

なお、穂揃い期に殺虫殺菌混合剤を使用する場合は、いもち病防除についても考慮して薬剤選択を行う。

表1 水田周辺のイネ科雑草地などにおける斑点米カメムシ類の発生状況（7月中旬）

地区	年 (地点数)	カメムシ類の種類									合計
		アカシ [*]	ホミドリ	ホハリ	トゲシ	シラホ	クモリ	ムギ [*]	クアツ	その他	
東部	H21(19)	100.2	2.0	13.1	3.0	1.5	14.9	2.0	0	3.2	139.9
	平年	101.6	4.8	3.1	0.6	0.2	7.5	1.4	3.9	1.0	124.1
中部	H21(16)	71.9	5.0	3.0	3.0	1.0	14.8	2.5	2.0	1.8	105.0
	平年	100.5	5.5	2.7	0.3	0.3	7.8	6.4	2.5	1.4	127.4
西部	H21(26)	178.4	4.9	7.0	1.5	1.0	10.5	2.0	4.8	3.2	213.3
	平年	157.1	8.3	2.9	0.4	0.4	5.1	3.9	0.9	1.4	180.5
県全体	H21(61)	120.2	4.6	7.7	3.0	2.2	13.6	2.3	4.6	2.8	161.0
	平年	120.8	6.2	2.9	0.4	0.3	6.7	3.6	2.6	1.3	145.0

注) 数字は捕虫網5往復10回振りすくい取り成幼虫数。1～3か所/地点の雑草地などを調査。

アカシ^{*}はアカシ^{*}カミカミ、ホミドリはホミドリカミカミ類、ホハリはホハリカミシ、トゲシはトゲシカミシ、シラホはシラホカミシ、クモリはクモリカミシ、ムギ^{*}はムギ^{*}カミカミ、クアツはクアツホリカミシを表す。

表2 イネ科雑草地における斑点米カメムシ類の年次別発生状況（7月中旬）

年次	種類									合計	備考
	アカシ [*]	ホミドリ	ホハリ	トゲシ	シラホ	クモリ	ムギ [*]	クアツ	その他		
平成11年	76.8	4.6	1.5	0.4	0.2	4.8	1.7	3.8	1.1	94.8	注意報発今年
平成12年	115.6	3.5	5.6	0.5	0.4	28.3	5.1	10.1	2.5	171.6	注意報発今年
平成13年	166.2	18.0	4.5	0.3	0.4	11.0	13.0	3.0	1.7	218.1	注意報発今年
平成14年	127.7	8.1	2.7	0.4	0.7	5.7	7.6	1.7	0.9	155.5	注意報発今年
平成15年	60.4	3.7	1.0	0.3	0.0	0.5	1.4	1.2	0.4	68.9	
平成16年	72.0	14.3	2.1	0.7	0.1	0.4	2.0	0.1	0.6	92.3	
平成17年	136.9	2.9	3.7	0.7	0.5	5.7	0.1	2.2	1.7	154.4	注意報発今年
平成18年	125.4	2.0	3.2	0.5	0.2	2.8	1.0	0.6	1.5	137.2	
平成19年	111.5	3.5	3.9	0.2	0.3	5.2	3.3	2.6	1.5	132.0	
平成20年	215.5	1.9	1.1	0.5	0.2	2.8	1.0	0.6	1.5	225.1	注意報発今年
平成21年	120.2	4.6	7.7	3.0	2.2	13.6	2.3	4.6	2.8	161.0	

注) 数字は捕虫網5往復10回振りすくい取り成幼虫数。